



September

防災家族会議を開きましょう！

ほけんだよ！



8月の保健室

- びょうき 14人
- け が 16人

札幌市では「手足口病」は警報レベルです。また、「インフルエンザ」も流行が始まりました。本校では今のところ流行している感染症はありません。



ハンカチ・ティッシュ 給食マスク

ハンカチティッシュの携行が習慣化していないお子さんもいます。給食当番のマスクも忘れないように声かけをお願いします。

学びの公開日！ー特別委員会が活躍しますー

■9月は防災の月です。家族みんなで防災グッズの点検や、避難場所の確認をしましょう。また、地域の防災訓練など積極的に参加しましょう。学校でも、全職員で日頃から安全点検をしたり、生活環境を整えたりしています。子どもたちが、「学校にいれば安心、先生と一緒に安心」と思えるような学校でありたいと思っています。

■子どもたちは「学びの公開日Ⅰ」に向けて元気に取り組んでいます。

今年度は特別委員会の子どもたちがいろいろな場面で活躍します。お子さんの頑張る姿はもちろんのこと、学年や委員会の頑張る姿について、是非お子さんを褒めて認める材料にしてください！

PTAで購入してくださった法被とてもかっこいいです！よっちゃれ、南中ソーランわくわくします。



えっ、もうインフルエンザ？

朝晩涼しくなりました。もうすぐ乾燥の季節、つまりウィルスにとって過ごしやすい季節がやってきます。湿気がないとウィルスは宙に舞いやすく、長く浮遊しているので感染リスクが高まります。今年はインフルエンザの流行も早く、札幌市でも先週「流行入り」の発表があり、学級閉鎖をしているところも出てきました。換気と手洗いでしっかり予防していきたいと思います。



防災家族会議のポイント

「ハザードマップ」でリスクチェック

●避難場所・集合場所の確認

家族が一緒にいるときに被災するとは限りません。避難場所と集合場所を確認しましょう。

●連絡方法の確認

スマホが使えなくなったときどうしたらいいか、災害伝言ダイヤル(171)の使い方などを確認しましょう。※お子さんは、自分の住所電話番号を言えますか？

●非常持ち出し袋・備蓄の点検

中身の確認をしましょう。期限切れの食品や薬品はありませんか。停電への備え、お子様が安心するグッズやおやつもあるといいですね。

「自分は大丈夫」 正常性バイアスに注意！！

人間は、災害が起こると言われていても、他の地域が被災していても、なぜか「自分だけは大丈夫」と思ってしまいます。これを正常性バイアスといいます。日常生活においては、些細なことで不安にならずに目の前のことに取り組めるので非常に役に立つ仕組みなのですが、災害時には注意してください。

災害が起こったら正常性バイアスが働かないように意識して「非常事態モード」に切り替えましょう。そして、家族や周りの人に「何より命が大事！」「早く逃げなきゃ！」と声をかけましょう。



お子さんは、運動しやすい靴を履いていますか？

—小学生の足は1年に約1センチ大きくなります—

成長期の足は、骨が柔らかく変形しやすいため注意が必要です。

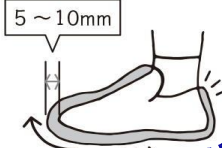
ぴったりサイズのチェックポイント

- つま先のゆとりは、指がグーパーできるくらい
- 足の横がきつくない
- かかとがパカパカしない
- つま先が反り上がっている（踏かないように）
- 足が曲がる位置で靴も曲がる
- 靴底に弾力がある

※靴底は、厚すぎたり薄すぎたりしないものを選びましょう。靴底は足の動きに合わせて曲がらないと足首を捻ったりしてけがをしやすいくなります。

小さすぎる靴

指が丸まり骨の成長を妨げます。



大きすぎる靴

足の指で踏ん張れなくて扁平足になったり、足の指に余分な力が入るために外反母趾になる危険があります。

マジックテープなどで甲の高さ調節できますか？

ぶかぶかしたり、すりへったりしていませんか？

足の指を自由に動かせるゆとりがありますか？

靴底は、足の動きに合わせて曲がりますか？



学びの公開日Ⅰの練習が始まっています

けがをしないように、お子さんの健康観察をお願いします！！

体調が悪いときは、朝のうちにお知らせください。

ぐっすり眠れていますか



朝ご飯は元気のもと



のびた爪は危険です



汗拭きタオルを持たせてください



子育てのつづき



低学年の教室では、誰か一人を褒めた途端、子どもたちが周りに集まってきてしゃべり始めます。一斉にしゃべるので、時には何を言ってるのかわからないまま「ほんと〜！」「すごいね！」「おうちの人喜んだでしょう。」と（わかったふりして）声をかけます。じっくり聞くことはできないけれど、真剣に聞くことはできます。それで子どもたちが満足した笑顔に向けてくれるので、かわいいったらありません。

自分が子育て中は、年の近い三人が「聞いて、聞いて」と集まると、「いっぺんに話さないで！」とか「後でゆっくり聞くから！」とか心に余裕がありませんでした。それでも耳が慣れてくると家事の手を止めて大雑把に聞くことができるようになりました。「あとでね」と言われた時の悲しげな顔よりも「聞いてないしょ〜！」と怒っているけど楽しげな顔をたくさん見ることができました。そばにいて、相づちだけで、なんとな〜くだけれど、お互いそこそこ満足できることを大切にしてきました。